

経済・金融
フラッシュ英国雇用関連統計(25年3月)
— 緩やかながらも賃金上昇率の減速傾向が継続

経済研究部 主任研究員 高山 武士

TEL:03-3512-1818 E-mail: takayama@nli-research.co.jp

1. 結果の概要: 週平均賃金は前年比 5.6%まで低下

4月15日、英国国家統計局(ONS)は雇用関連統計を公表し、結果は以下の通りとなった¹。

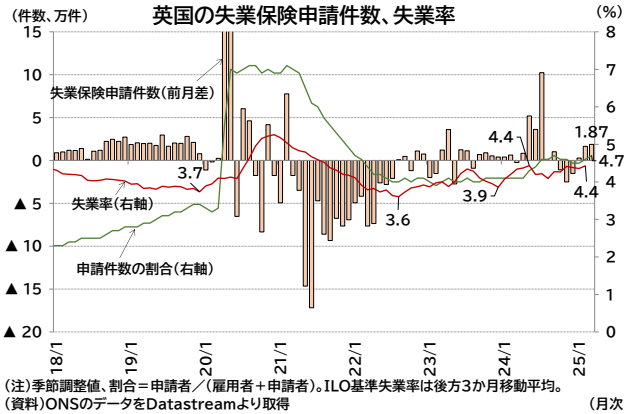
【3月】

- 失業保険申請件数²は前月(174.73万件)から1.87万件増の176.60万件となった(図表1)。
- 申請件数の雇用者数に対する割合は4.7%となり、前月(同4.6%)からやや上昇した。
- 給与所得者数³は前月(3040.7万人)から7.8万人減の3032.9万人となった。増減数は前月(▲0.8万人)から減少幅が拡大し、市場予想⁴(▲1.5万人)を下回った。

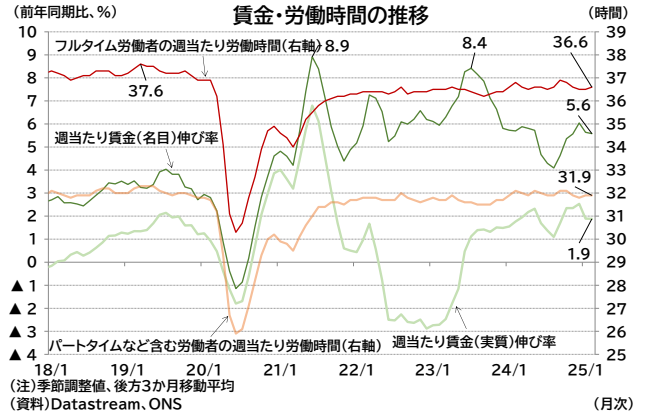
【2月(24年12-25年2月の3か月平均)】

- 失業率は4.4%で前月(4.4%)から横ばい、市場予想(4.4%)と一致した(図表1)。
- 就業者は3399.6万人で3か月前の3379.0万人から20.6万人増加した。増減数は市場予想(17.0万人)を上回り、前月(14.4万人)から拡大した。
- 週平均賃金は前年比5.6%で前月(5.6%)と一致、市場予想(5.7%)を下回った(図表2)。

(図表1)



(図表2)



2. 結果の詳細: 給与所得者の給与(中央値)伸び率は4%台に低下

まず3月のデータとして公表されている求人数および給与所得者数を確認すると、求人数が25年1-3月の平均で78.1万件となった。ここ数か月80万件前後で横ばい推移していたが、1-3月は

¹ 労働力調査ベースの統計については、回答率の低下を受け、ONSでは開発中の公式統計という位置付けで公表されている。

² 求職者手当(JSA: Jobseeker's Allowance)、国民保険給付(National Insurance credits)を受けている者に加えて、主に失業理由でユニバーサルクレジット(UC)を受給している者の推計数の合算。なお、UCはJSAより幅広い求職手当であり、失業者数を示す統計としては過大評価している可能性がある。このため、ONSは開発中の公式統計という位置付けで公表している。

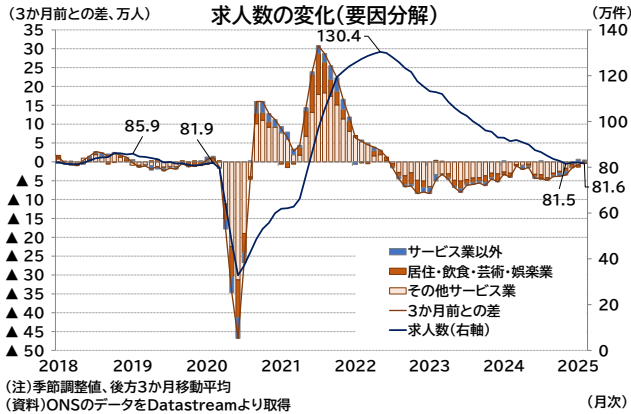
³ 歳入関税庁(HRMC)の源泉徴収情報を利用した統計。直近データは約85%のデータから推計。

⁴ bloomberg集計の中央値。以下の予想値も同様。

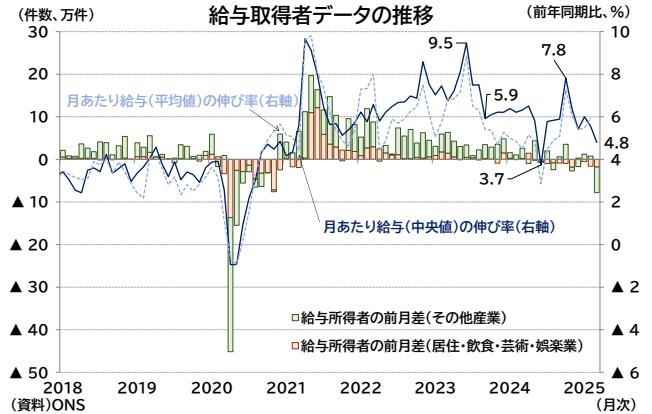
やや低下が目立った（図表3）。なお、3月単月の求人数は76.8万件だった⁵。

給与所得者データは、3月の給与所得者数（速報値）が前月差で7.8万人減となり2か月連続での減少となった（なお、過去の数値の改定は2月：2.1→▲0.8万人、1月：0.9→0.7万人）。産業別には卸・小売業、居住・飲食サービス、保健・社会事業サービス、専門・技術サービス、製造業など幅広い業種で減少した。3月の給与額（中央値）伸び率は前年同月比4.8%となり、2月（5.5%）から低下した。

（図表3）

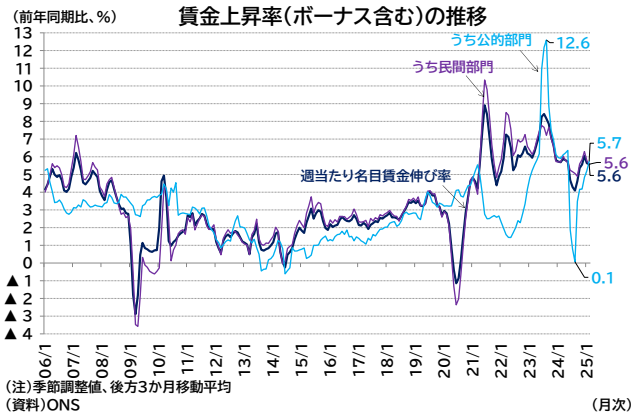


（図表4）

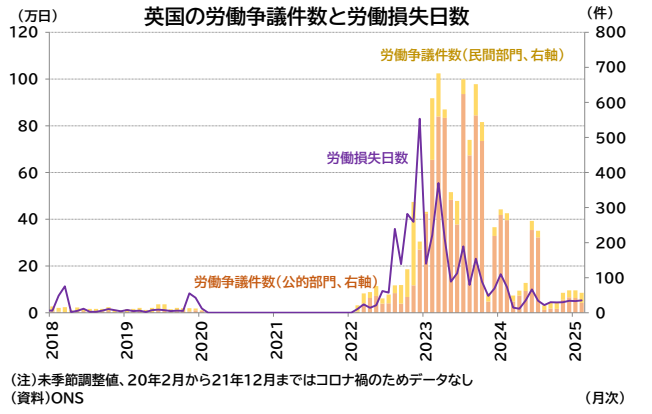


労働力調査ベースの数値は、24年12-25年2月期の失業率が4.4%となり、前期の4.4%から横ばいとなった（前掲図表1）。就業者と失業者が増加し、非労働力人口が減少した。労働参加率は63.5%まで上昇し、コロナ禍後の直近ピークを上回った。

（図表5）



（図表6）



労働時間は31.9時間（前年差▲0.2時間）、フルタイム労働者で36.6時間（同▲0.2時間）となった（前掲図表2）。名目賃金は前年比で5.6%となり、前月（5.6%）から横ばいだった。ボーナスを除く定期賃金伸び率は前年比5.9%と前月（5.8%）からやや上昇、市場予想（6.0%）を下回った。同数値を3か月前比年率で見た賃金上昇の勢いは6.0%（前月5.8%）とやや加速している。なお、民間部門の賃金上昇率が前年比5.6%（前月5.8%、ボーナス除きは5.9%）、公的部門が同5.7%（前月4.2%、ボーナス除きは5.7%）で民間部門の伸びはやや減速、公的部門の伸びは上昇が継続している（図表5）。実質ベースの伸び率は、ボーナス含みで前年比1.9%（前月1.9%）、ボーナスを除きで同2.1%（前月2.1%）と横ばい推移だった。

処遇改善を求めたストライキは、2月は件数ベースで57件（1月64件）、労働損失日数で5.3万日（1月5.0万日）となっており、低水準での推移が続いている（図表6）。

⁵ 3か月平均のデータは季節調整値だが、単月データは未季節調整値のため季節性が除去されていないため留意が必要。